

情報通信審議会情報通信技術分科会 ITU 部会  
周波数管理・作業計画委員会第 18 回会合議事概要

- 1 開催日時  
平成 31 年 4 月 24 日（水）10：00～12：20
- 2 場所  
総務省（合同庁舎第 2 号館）8 階 第 1 特別会議室
- 3 出席者（敬称略）
  - ・専門委員：  
小林 哲、小川 博世、新 博行、阿部 宗男、市川 武男、岩間 美樹、梅田 成視、加保 薄田 由紀、田村 知子、西田 幸博、橋本 明、浜口 清
  - ・関係者：  
東 充宏、荒田 慎太郎、市川 正樹、市川 麻里、大石 雅寿、川村 和也、久保 田 文人、河野 健司、鮫島 耕治、篠原 笑子、庄木 裕樹、菅田 明則、高尾 浩平、高田 仁、田北 順二、棚田 祐司、輦田 健、西本 友成、藤本 卓也、山下 孚、宮寺 好男、米子 房伸、
  - ・事務局：  
深堀 道子、羽多野 一磨、竹村 崇裕、中村 聡史、安田 匡宏
- 4 議事
  - 1 RAG 会合について
    - (1) 会合の結果報告
  - 2 SG1 関連会合への対応について
    - (1) 提出予定日本寄与文書（案）の審議
    - (2) 対処方針（案）の審議
  - 3 その他
- 5 議事概要
  - (1) RAG 会合について
    - (1) 2019 年 4 月 RAG 会合の結果報告  
資料 18-1 に基づき、事務局より説明が行われた。意見交換での主なコメントは以下のとおり。

（西田）会合出席者として補足すると、日本から提案した事項について、現地の議論では、必要性を認めないという雰囲気であったが一方で、BR 事務局のレベルで対応できる可能性がある事項もあり、それらは BR 事務局において検討していただく方向となった。

（阿部）RA-19 に向けたイラン提案について確認したい。RA までは十分な時間はないが、コレスポネンスグループでの議論を実施した後、いきなり RA に提案が入力されるのか。本件提案はインパクトが大きいため、普通は RAG において 1、2 度検討された後に提案されるのが一般的な感覚である。RAG の場で、今後の方向性は明確にされたのか。

(事務局) まずはメールでやりとりを行い、その上で機会を捉えて実会合を行う。具体的には、9月の inter-regional Workshop の期間中、もしくはその前後において、関係者で打ち合わせることが検討されているとの事であったが、確定事項ではない。

(主査) 本コレスポネンスグループでの議論は本委員会のマターとなる。この件は、WRC に向けた作業を左右する重要な案件であり、関係者もホームページの Chairman's report を見て注視して頂くとともに、必要に応じてメール審議を実施することになるだろう。

(2) SG1 関連会合への対応について

(ア) 日本寄与文書(案)の審議

資料 18-2 について各提案者より説明が行われた。本会合での意見を踏まえ寄書を修正することとし、日本寄与文書を提出することが承認された。

審議過程での主なコメントは以下のとおり。

資料 18-2-1 について

(大石) この件は、影響を受ける受動業務側としても関心が高い。次回の SG1 関連会合は SG7 関連会合と平行して開催されるため、このような最新情報を受動業務関係者のいる WP7C 及び 7D へも入力して頂くと、よりよい方向性・結論が得られるのではないかと。来月には SG7 への入力寄与文書等の審議を行う国内会合が開催されると聞いており、そちらへも寄書を入力することを検討頂きたい。

(小川) 承知した。どのような文書の形態での入力が望ましいか。

(大石) 本寄与文書を Attachment として付けて、寄与文書本文は、WP1A でこういった内容を検討しているのでご検討いただきたいということを記載することでよいのではないかと。

(橋本) 本件は WRC 議題関連レポートであるので、先延ばしにするのではなく、とりまとめる方向で進める必要があることはご留意頂きたい。

(市川(麻)) 本寄与文書は、ESS のセンサと LMS との共用検討が完了し、問題なく共用出来る事が証明されたという内容であるとの認識で良いか。

(小川) 机上検討が完了し、確認できた周波数帯を入力したということである。

(主査) モバイルデバイスのブロッキング損失はどのような性質のものか。

(小川) 本件のユースケースでは、モバイルデバイスの内部に固定送受信送信機が入っており、モバイルデバイス自体によって送信機からの電波が遮蔽される。この遮蔽効果について評価を行った結果、18.5db という値が出てきたということである。但し、あくまで我々の実験結果であり、莫大なデータを計測したものではなく、このブロッキング損失の値がどのように評価されるかは、今後の課題である。

資料 18-2-2 について

(橋本) タイトルに PASSIVE SERVICE と記載されているが、この検討は WP1A で可能な  
のか。また、Introduction の 5 行目に決議 950 が出てくるが、この記述は不要で  
はないか。また、次の段落における WP 名、Q237' 1 に付随している New といった  
表現はそれぞれ不要である。

(小川) PASSIVE SERVICE と記載した意図は、電波を発しないものを含めるという意  
図であったが、誤解を惹起するので削除する。その他の表現も修正する。

(大石) 脚注 5.565 に関する記載についても誤解を生む表現のため、FACT をそのまま  
記載しては記載をしてはどうか。

(小川) 指摘の通り修正する。

#### 資料 18-2-3 について

(西田) 寄書概要の経緯の欄について、項目 3 と 4 の記載の意図が不明瞭である。ま  
た、寄書本文に列挙されている considering、recognizing、noting 等について、  
これらはきちんと定義に基づいて記載されているのか、また全てが必要なものな  
のかに疑義がある。寄与文書本文では、Recommends の部分において現在形の表現  
になっているのは意図があるのか。

(庄木) 項目 3,4 については表現が良くないかもしれない。寄書本文は国際会合の場  
で本分野について明るくない方も多いため、あえて背景を詳しく書いたという意  
図があった。書き方が適切でない部分もあるので、Recommends 部分と合わせて検  
討の上、修正したい。

(大石) Recommends に環境雑音が 4 種記載されているが、これは WPT 側で環境雑音に  
応じて不要放射レベルを変えることを勧告するように見え、そのためには環境雑  
音をセンシングする必要がある。そのような意図でない場合には、適切に修正す  
る必要がある。

(庄木) 意見を踏まえて修正を検討したい。

(西田) considering、noting 等の項目は、それぞれ定義に応じて書いて頂きたい。

(庄木) 修正したい。

#### 資料 18-2-5 について

(西田) 寄書概要の要旨② について、空間伝送型 WPT を“無線通信業務と同様に扱  
う“ということを検討中、といった記載があるが、正確さに欠けるのではないか。  
“無線設備として扱う“ということではないか。また、寄書本文における該当の箇  
所も誤解を招く表現ではないか。

(主査) 懇談会の報告書の内容に基づき、正確化を図りたい。但し、“無線設備”は  
RR に存在しない概念であるため、いかにわかりやすく正確に訳すか、という問題  
もある。関係者で調整をさせて頂きたい。

資料 18-2-6 について

(主査) 18-2-5 での西田氏の指摘は本件寄書にも関係するため、併せて修正を頂きたい。

(イ) 対処方針（案）の審議

資料 17-3 について事務局より説明が行われた。本会合での意見を踏まえて対処方針を修正することとし、承認された。審議過程での主なコメントは以下のとおり。

(主査) SG では勧告の承認まではできないため、最後の 2019 年会合での” 勧告化” という記載は修正した方が良い。

(事務局) 修正する。

(3) その他

事務局より、本日のコメントを受けて資料修正を行う場合は、5月10日（金）までに事務局宛に送付しメール審議に諮ることとされた。また SG1 関連会合の外国寄与文書審議表については、別途メール審議とする旨が周知された。

また、次回の周波数管理・作業計画委員会はRA-19会合のうち、SG1及びRAGに関するものの対処を検討するために開催する予定であり、日程については主査と相談した上で別途案内する旨が周知された。

以 上